

意外性をもたらす絵本推薦に関する研究

岡島 春暉

子どもの読書活動は、文部科学省によると「言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」とされており、その重要性が示されている。一方で、幼児期からの読書習慣の未形成などによる子どもの「読書離れ」が指摘されており、子どもの読書に対する興味関心が薄れてしまっていることが問題となっている。

そこで本研究では、絵本に対する興味を広げるために、意外なキーワードの組み合わせを雑学や語源などを利用して収集し、それらのキーワードを利用して意外な絵本を推薦する独自の絵本推薦の仕組みを提案する。この絵本推薦では、絵本に付与される“絵本キーワード”と、それに対する“意外性情報”を格納した意外性辞書を構築する。さらに、意外性辞書のキーワードをテーマ毎に分類するテーマ辞書を構築する。絵本推薦の仕組みとしては、ユーザが絵本を一冊選択し、意外性辞書を利用して意外なキーワードを抽出する。さらに、テーマ辞書を利用してより意外性を拡張し、意外な絵本を推薦する。

絵本推薦の仕組みの有効性を検証するために、意外性辞書とテーマ辞書の評価を行った。まず、意外性辞書に含まれるキーワードの組及びテーマ辞書によって拡張されたキーワードの組の両方を混ぜた96組の評価セットを作成した。さらに、対応する絵本46組による評価セットを作成した。そして、キーワードの組み合わせと絵本の組み合わせにどれだけ意外性を感じるのかの評価を収集し、意外性辞書とテーマ辞書の有効性及び絵本推薦としての利用可能性を検証した。

評価者は、大学生・大学院生22名とし、2つのキーワード、絵本を比較した際に、Q1「自分ならどれくらい意外性を感じるか(4段階)」、Q2「小学1,2年生の子どもならどう思うか(2段階)」の2つを質問項目に設定した。

評価の結果、キーワードの平均評価値はQ1が2.85、Q2が1.78であり、大人と子ども両方が意外性を感じていた。さらに、絵本の平均評価値はQ1が2.89、Q2が1.77であり、キーワードと同様に大人と子ども両方が意外性を感じていることから、意外性辞書の有効性が示唆された。テーマ辞書の拡張は、拡張前後の絵本の平均評価値を比較すると、Q1、Q2ともに拡張後の方が意外性が有意に高かった。一方、キーワードについてはQ1のみ拡張後の方が意外性が有意に高く、テーマ辞書の拡張の有効性がある程度示唆された。

本研究では、意外性をもたらす絵本推薦の仕組みを提案し、その実現のために作成した意外性辞書とテーマ辞書が意外な絵本推薦に有効である可能性が示唆された。今後の課題は、実際の子どもの対象とした評価を行うこと、本研究にて得られた基礎データを有効活用し、推薦システムの実現につなげていくことである。

(指導教員 松村敦)